

すっかんぽ

☆ 研究室だより No.14

1993年 7月号

ヤンバル 山原日記 その1

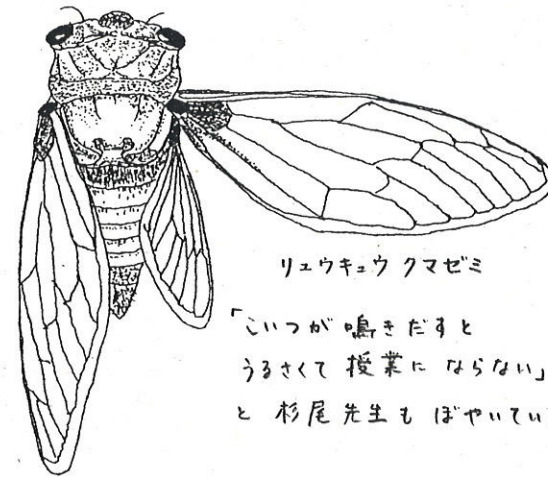
ヤンバルテナガコガネと タナガ-グム1 の巻

7月7日、午後2時10分、羽田発のジェット機から降りると、いきなり30度とこえる熱風が押しよせてきた。那覇空港の温度計は、32度を示していた。空港を出ると、思いサングラスをかけた杉尾幸司先生が出迎えに来てくれた。杉尾先生は、地元、高校の生物教師であるが、琉球大学時代からシロアリの生態を研究していて、今年の前半(4~9月)、宇都宮大学、同じ研究室に内地留学にきているのだ。

琉球大学と聞いて、私は高校の時、同じクラスだったN君のことを思い出した。彼は、琉大の生物学科に入学したのだが、洞窟探検部に入ったという話を聞いた後、ぷつぷつと消息がとだえ、行方不明になっていたのだ。洞窟に迷いこんで死んでしまったのでは、とうわさされていた。その話をすると、杉尾先生は、びっくりしたように「えっ? N君を知ってるんですか。実は、彼と同じ研究室にいたんです。洞窟でおかしな研究をしていましたが、生きていますよ。卒業はできなかったかもしれませんが……」 とうやらN君は、沖縄で数奇な運命

をたどっていたようだった。私は、一度は死んだことにされていたN君が再び蘇ってきたことに、死ぬほどびっくりした。しかし、それはやがて彼の人生の歯車を狂わせた沖縄に対する強いあこがれへと変わっていったのである。“ぜひ、沖縄へ来て下さい。私のフィールドも案内します。” 杉尾先生のその一言が私の心を大きく動かした。

翌日(7/8)朝5時に目がさめると、宿の回りの山々は、リュウキウクマゼミのシャーシャーという鳴き声につつまれていた。気温はもうすでに30度に近づこうとしているようだった。



リュウキウクマゼミ

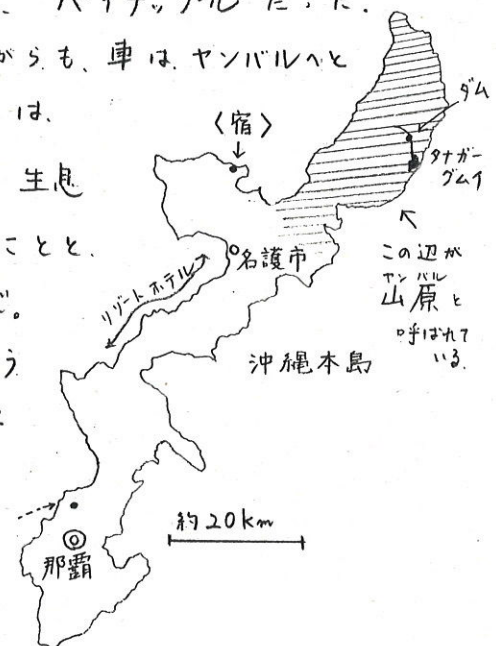
「こいつが鳴きだすと
うるさくて授業にならない」
と杉尾先生もぼやいていた。

朝、散歩していると道に幼虫が落ちていた。夜、羽化に失敗したのでは。



幼虫

9時に杉尾先生の車が宿に迎えにきた。途中立ち寄ったガソリンスタンドで、景品としてもらったものは、パイナップルだった。ここは、沖縄なんだなあと妙に感心しながらも、車はヤンバルへと向かっていた。今回の旅の目的の一つは、あのヤンバルクイナやヤンバルテナガコガネの生息するヤンバル(山原と書く)の森をみることに。そこを流れる川でテナガエビを捕えることだ。ただし、山原とは、沖縄本島の北部のう。そうとした常緑樹林(シヤクブの木)の丘陵地帯を指している。どこからと決まっているわけではない。



11時30分 山原の森も切り開いて造った 普久川^{ふくがわ}ダムに到着。 今から 12年前の 1981年 この山原で、ヤンバルクイナが発見され、8年には、ヤンバルテナガコガネが見つかった。

ダム建設により森が切り開かれ、道ができたことにより人々にその姿を現わしたのだ。

ヤンバルテナガコガネの最初の一匹がダムの外燈に飛んできたことと

考えると、これら新種の発見は決して手離して喜べるものではないはずだ。

ヤンバルテナガコガネ

は、現在、絶滅^{きぐ}危惧種に指定されているが、密猟が相つき、森林の伐採も続いているという。



↑ 普久川ダム。
(後ろに広がる山が本来の山原)

12時ちょうどに、我々は 普久川^{ふくがわ}ダムの下流にある タナグーグムイにたどり着いた。 タナグーグムイとは、タナグー(テナガエビ)のたくさんいる 滝っぼ 周辺のことである。

もう10年くらい昔になるが、沖縄の西表島で、イリオモテヤマネコを見るために山に何日もこもっていた大学時代の友人 A君がいた。 島にひと月くらいいたらしいが、ねば、たかいあ、て イリオモテヤマネコの写真もとることに成功した。 この間の重要な食糧源が川でたくさん採れる テナガエビだったのである。 この話を聞いた時、私は、ヤマネコよりも テナガエビの方に 沖縄らしさを感じてしまった。 沖縄の テナガエビは、とにかく、デカイのだそうだ。

←〈沖縄では、直射日光を避けるため、こんな 服装がベスト。〉



フル装備の杉尾先生

当時、卒業研究で 淡水産のエビもテーマにしていた私は このテナガエビこそ 沖縄の 象徴のように感じたのだ。 今回のタナグーグムイは、A君のいた西表島ではないが、もしかしたら 同じ種類の テナガエビ がいるかもしれないという期待があった。

腰まで水につかて、水中ものをきこむと、岩のかげから大きなはさみと振り回す 8匹の テナガエビの姿が現われた。

死んだ魚をめぐって 激しいエサの奪い合いをしている。 栃木県

の テナガエビに比べ、はさみが太く、がっちりしているのが特徴

だが、体長そのものは 9cm 前後と それほど変わらない。 沖縄

には、はさみと入ると 30cm にも達する テナガエビの種類がいる

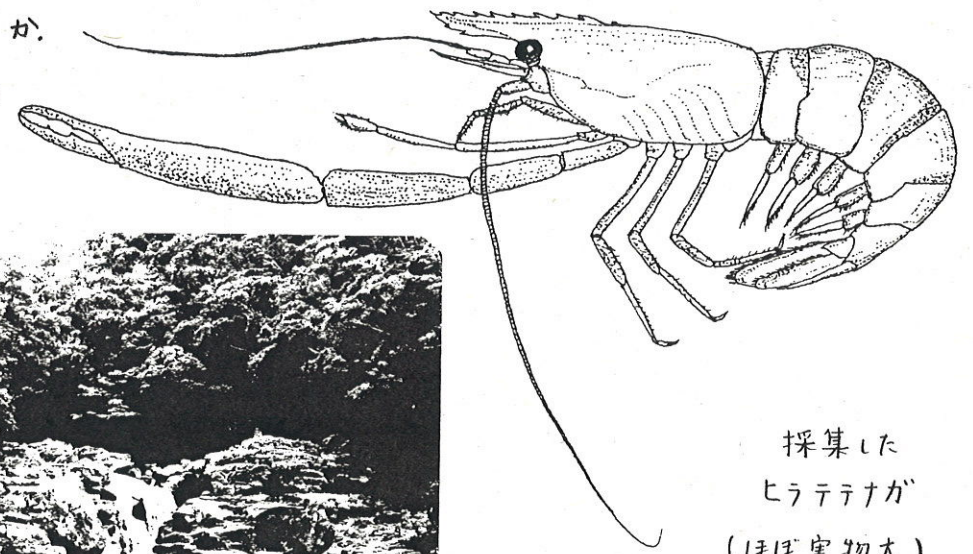
そうだが、タナグーグムイのは、どうも違うようであった。 調べてみると

ヒラテテナガ であることがわかった。 30cm 級でなくて残念だ。

だが、はたして、友人が西表島で食べたのは、何というテナガエビ

だったのだろうか。

今度、会った時にきいてみよう
と思った。



採集した
ヒラテテナガ
(ほぼ実物大)



タナグーグムイ

← 滝っぼの中に タナグー(テナガエビ)が生息。